

29年実績10%の伸び

北農工

通常総会と表彰式開催

新専務理事に竹中氏

(一社)北海道農業機械工業会は5月25日、第66回通常総会並びに各種表彰式を行った。平成29年実績では減少傾向が止まり、農業者の競争力強化に向けたさらなる貢献を誓った。

総会では、会員企業の平成29年実績は、自社生産出荷台数が3万3300台で前年比6.7%増、出荷金額が190億4200万円で12%増。自社生産出荷で

宮原會長

180億9600万円と
10%増となった旨を明記
かにした。ここ3年の実
績は減少傾向にある中で
歯止めがかかる形だ。

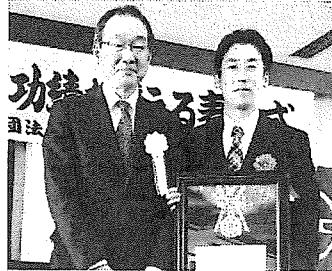
一方、会員数は(株)北海道の、正会員の株式会社農機製作所と賛助会員の有(シヤルフエーフ)商会、北海道みのる(株)の退会により、正会員30社、賛助会員28社の58社となつた。

る。競争力強化に向けて、農機業界に課せられた役割はますます重要となっている。国際農機展では、ICTを活用した新技術が披露されるが、近い将来のニーズに応えるべく製造者としてさらなる責

献を目指す」とあいさつした。また来賓の北海道経産局の岡出直人地域経済部長と北海道経済部の野村聰産業振興局長があいさつ。その中で5月中旬に中国の李克強首相が来道し、本道産品の中国

への輸出や本道農業機械に高い関心を示す中で国際農機展開催のタイミングは時宜に叶つたものであり新たなビジネスチャンスの展開も期待したいとした。

長の乾杯の音頭で開宴。積極的な交流がなされる中で、竹中新事務理事らのあいさつなどが行われる中で、開会の辞をエフ。イーの三宅勇太事業管理部長が行い、和やかな中で会は終了した。



優良農業機械知事賞と
会長賞を受賞したオサ
ダ農機の鎌田社長

中で永年続役員表彰として土谷令次氏と安久津昌義氏が了承され平成31年新年交社会で表彰授与する運びとなつた。

二二〇株の盛夏雅彦氏より
本田農機工業株の柴谷幹
也氏の4社6名が選ばれ
表彰。受賞者謝辞をオサ
ダ農機の鎌田社長と東洋
農機の外山氏が述べた。

通常総会並びに各種表農業者の競争力強化
また専務理事に竹中秀
行氏、新理事に㈱エフ・
イー社長の佐々木通彦氏
氏が就任した。

その他、アグリテクニ
カ・アジア20118にI
H・アグリテックと工
フ・イー、石村鉄工、本
田農機工業の会員企業4
社と共に出展するとした。
それから各種表彰者の
議案も承認された。その

また農業機械化促進法の廃止に伴い、優良農業機械・施設等の表彰規定を改定した。

オサダ農機に知事賞を授与

北農工が総会と表彰式

北農工（宮原熏会長）
は5月25日午後、札幌市
内のホテルで、第66回通



あいさつする宮原会長

「8」に同会会員企業4社が出展、市場開拓の一助とする。理事の選任では、新たに株エフ・ジーの佐々木通彦社長と事務局長の竹中秀行氏が理事となり、玉木哲天専務理事は

常総会並びに平成30年度の表彰式と受賞祝賀会を開催した。宮原氏を議長として、29年に進めた総会では、29年度事業報告、30年度事業計画など10議案を審議、いずれも事務局原案通り可決した。

北海道の野村局長から知事賞を受けるオサダ農機の鎌田社長（左）



竹中專務理事

は竹中氏が就いた。また、報告事項として明らかにした29年度の総生産・出荷実績は、総出荷額190億4000万円、前年比11.2%、正規工場の専務理事に退任、後任の専務理事に増加を維持した。他方、輸入機械の金額は363億円で、同会社は販売出荷額の倍まで増えており、その88%はEU製品が占める。

その後行われた表彰式

卷之三

輸入機械の金額は363億円で、同会正会員出荷額の倍まで増えており、その88%はEU製品が占める。

佐々木 美子 では まし した

、た、從業員功勞表彰
、大友道博、児玉紀
、樺平早苗、外山伊
（東洋農機）、盛昌

帯広の国際農機展に対し
てもお役立ちしたいと意
欲をみせた。加えて新会
員となった(㈱北海コーキ
(後藤幸輝社長)を紹介
しつつ、会議のスムーズ
な進行に協力を求めた。

け、知事賞を北海道経済
部産業振興局の野村聰司
長が、会長賞を宮原会長
が、それぞれ同社・長田
秀治会長に代わって出席

では、オサダ農機(株)の
「コンテナ受容式キャベ
ツ収穫機」が優良農機・
施設等開発改良表彰を受

氏と外山氏が受賞者謝辞として、受賞を契機に一層の精進に励む旨、誓いの言葉を述べた。

席のスガノ農機株・渡邊信夫社長、北海コーキの後藤社長が近況などを話しつけた。三宅勇太取締役の発声で行つた乾杯で会を閉じた。